

地区目標

ロータリーにもっと誇りを
そして学び DEIの心を持って行動実践しよう

クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、仲間と絆を！

◆点鐘：遠藤 靖彦 会長

◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ

◆司会：佐藤 淳 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



第3023回例会

令和6年8月5日(月)

ロータリーの
マジック

会長あいさつ

遠藤 靖彦 会長



今日から花笠が始まります。今日は花笠の歴史を振り返るということで、商工会議所の木村専務にお越しいただきました。

木村専務と私は同級生でして、南高理数科で3年間一緒でありました。実は当時、南高理数科が前年に定員割れをしまして、理数科の人气がなかったんですね。どちらかということそこの進学と就職が、商社に入るという感じとか、そういうのが人気の時代でして、あまり理数科の人气がなかったと。それで、私たちの前の年には理数科が定員割れしたという状況がありました。定員割れしたので、もしかすると入れるかもしれないということで受験をしたのが私であります。

前置きのほうが長くなりましたが、今年、うちの会社、事故をもらう人がちょっと増えております。5月6月と追突をされたというのが3件くらい。あと直進をしていたら目の前に右折車が飛び出してきたというものとか、結構大きな事故が増えてます。最近スマホを見ながら運転している人が増えているということともちょっと関わっているのかなと思いますが、うちの会社の目の前の大野目の交差点、こちらが立体交差になる前は山形市内では一番事故が多い交差点だと。それで、事故自体も大きな事故が多いと。人命にかかわるような事故、そういうのが大変多いということで、結果、あそこを立体交差にするという動きになったという話を聞いております。

調べると、山形市内で事故の多い拠点、地点というのが出てきます。そこをちょっと注意すれば事故を防げるのかなということで、社員にもそんな話をさせていただきました。皆さんも今ネットでいろんなものを調べられます。事故の多い地点というのは山形市内にたくさんあります。横からの車を見にくい場所とか、行ってみると「ああここはやっぱり事故が多そうだな」ということが理解できる場所というのはたくさんあります。社員にそんな説明をしなから注意を喚起するというのも今後重要なことになるかもしれません。ぜひそんなものを調べて見ていただきたいなと思いますし、皆さんも事故をするほうでなく、もらうというのもいろいろ大変になりますので、十分注意しながらこれからの暑い夏を乗り切っていただきたいと思います。

幹事報告

武田 良和 幹事

- 新入会員をご紹介します。山住設備株式会社の齋藤洋也さんです。よろしくお願いいたします。
- 先般、夜例会初めて行われました。二次会も、親睦会も盛り上がりまして、屋台村、すごく楽しかったです。皆さんと交流できますし、いろんなご指導もいただけたという場で、私にとってもすごく貴重な機会だなと思えました。あと4回ございますので、ぜひご参加をいただきたいと思います。
- 本日例会終了後、二次会を予定しております。関係の方はご出席をお願いします。
- 今月のロータリーレートは154円です。

新入会員紹介



齋藤 洋也 さん

《山住設備株式会社》

皆さんこんにちは。山住設備株式会社の齋藤洋也と申します。この度は歴史と伝統のある山形西ロータリークラブに入会させていただき、誠にありがとうございます。

多くの諸先輩方のご支援ご厚情にも恵まれ、今日まで細々と企業経営を続けてまいりました。そんな若輩の身ですから、入会のお誘いをいただいた時は、あまりにも分不相応、力不足と一度は固辞をさせていただきました。ところが、そんな考え方が少しずつ変わっていったのは、関係者の皆さまと対話を重ねていくほどに、世界の情勢、地域経済、そして社会奉仕に対する自分の無知を思い知らされたことによります。あるならば、ここを学びの起点としてみよう、そして貴クラブの名に恥じない会員を目指すことが第二の故郷である山形への恩返しという道程に重なって見えました。

まだ教を乞うばかりの身ではありますが、入会のご承認をいただいた諸先輩方にならい、山形の活性化と安寧の一助になれるよう努めていきたいと存じます。何卒よろしくお願いいたします。

委員会報告



親睦・家族委員会

佐竹 耀光 さん

会員8名、奥様が8名、8月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。引き続きご連絡させていただきます。

奥様・大切な方へのスペシャルギフトの期日が迫っております。今週末の8月9日金曜日が締め切りとなっておりますので、よろしく願いいたします。今回は能登復興支援ということで、4品から選んでいただきますのと、期日までに注文のない方は在庫関係が多少ありますので、そのときは事務局一任で商品を発送させていただきますのでご了承をお願いいたします。

ニコニコ BOX

〈8月5日〉

遠藤靖彦会長／夜例会御礼。そして木村様、本日はありがとうございます

前回、7月29日の例会は夜例会としてクラブ管理運営の富田副会長のグループに夜例会の会をしていただきました。楽しい会をありがとうございました。本日は木村専務、お忙しい中ありがとうございます。

武田良和さん／商工会議所木村専務をお迎えして

県産業労働部部長としてコロナ禍を乗り越えるために尽力されているお姿がとても印象深く、その人柄は優しさにあふれておられます。今日の講師をお引き受けくださいましたこと、心から感謝申し上げます。

遠藤正明さん／燕岳登山

7月27日、北アルプス燕岳に登りました。山頂からの槍ヶ岳、穂高連峰の絶景は最高でした。次はどこにしようかな。

横沢善則さん／木村さんをお迎えして

今年度初のゲスト卓話講師をお迎えいたしました。木村さん、花笠まつりで忙しい中、ありがとうございます。花笠まつりが大盛況に終了することをご祈念いたします。

東海林仁さん／全日本スイカ割り選手権大会

昨日、尾花沢で開催されました全日本スイカ割り選手権大会に家族で参加しました。スイカ割りは予選で敗退するも、敗者復活戦のスイカ早食い競争子どもの部で娘が優勝。決勝戦へと進みました。残念ながら決勝では思いどおりの結果を残せず、優勝を逃し悔しがる娘の姿は、まるでオリンピックで惜しくもメダルを逃した選手のような様子。今朝、何げなく山新を見ましたら一面に娘のコメントと家族の写真が掲載されておりました。夏休みのすばらしい思い出になりました。来年は優勝するぞ！

渡辺隆博さん／屋台村御礼

夜例会のあとの懇親会を屋台村にご利用いただきまして、誠にありがとうございます。また今日から花笠まつりが始まり、大にぎわいとなります。感謝を込めましてニコニコいたします。

八鍬建三さん／齋藤洋也君、入会を歓迎して

齋藤洋也君、入会おめでとう。ゴルフ戦力として期待しています。

浦山潔さん／今年1年よろしくお祈りします

本会、ロータリー財団委員会委員長浦山、副委員長齋藤、委員に細谷、中山、佐藤の5名で活動いたします。会員皆さまの善意、よろしくお祈り申し上げます。

ゲスト卓話



花笠まつりの歴史を振り返る

木村 和浩 さん

《山形商工会議所 専務理事》

皆さまこんにちは。ご紹介いただきました商工会議所の木村でございます。山形西ロータリークラブの皆さまには本当に日頃から地域社会の発展にさまざまご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。また、商工会議所の事業活動におきましてもいろいろな面でご協力を賜りまして、この場をお借りしまして深く御礼を申し上げたいと思います。

私も商工会議所にまいりましてまだ4カ月余りでございます。そうした中で花笠を語れるような状況にはありませんけれども、今回は会長はじめ役員の方からのご下命がございましたので、取り急ぎ関係する資料などをまとめさせていただいて、皆さまのお手元のほうに冊子で、大変見づらくて恐縮ですが、配らせていただいたところであります。

昨日、花笠まつりの前日祭ということで、このメインの通りで花笠サマーフェスティバルと県観光物産市が開催されました。昨日も非常に暑い中ではありましたが、昨日は16万人の人出、来場者があったということで、昨年よりも1万人ほど増えております。また、花笠まつりの御祭神であります蔵王大権現を祀る下沢にございます刈田嶺神社のほうで昨日は前夜祭ということで祭事が執り行われました。そしていよいよ今日、花笠の本番ということになります。

皆さまにお配りしている資料の1枚目、これが花笠のメインのチラシの資料になっております。8月5、6、7日と、今日から3日間になりますけれども、夜の6時から9時半、10時くらいまでにかけての大会になります。今日も非常に暑さ厳しい状況でありますので、熱中症対策などさまざま注意をしながら進めていければと思っております。この資料の補足ということで、今回、2024年度が第62回目になります。平成元年度、それから5年、6年の比較の表を作っておりますけれども、平成元年の時は参加団体161団体と1万3千数百名、来場者数も98万人、非常に賑わっておりました。そのあと、令和2年のコロナがございましたけれども、コロナの時は一時中止というような形もございましたが、令和3年度についてコロナ対策を取りながら実施をしてきております。昨年、令和5年度については、コロナの5類移行もありまして、131団体、8千8百名の踊り手ということで、80万人のお客様がいらっしゃっております。今回の第62回は、踊り手、団体は139団体、今、大体9千7百名くらいの方ということで、だいぶ戻ってきております。令和5年の時からやはり温暖化で非常に暑い日が続いておりましたので、踊りのスタート地点につきましても山形郵便局、本局の前からということで、200メートルほど縮めて800メートルのコースで開催しております。今年も800メートルのコースで開催を予定しております。今回、初日は57団体、4千3百名、やはり一番多くなって、2日目が48団体約3千名、3日目が34団体2千5百名と。それからゲストの方々も8月5日、6日、7日と、このような方々からゲストとして参加いただく予定であります。

今回の花笠まつりの特徴といいますか、今回新たに取組んだこととしまして、各企業の皆さまからご協賛をいただきまして、「山形花笠まつり」という約2千個の新たな提灯に更新をしております。7月16日に市役所の前にございます、花笠とさくらんぼやブドウなんかを模ったイルミネーションの点灯と合わせて提灯のほうも今点灯させていただいております。8月7日まで提灯のほうは点灯していく予定であります。

それから、今回「昼花」ということで、お昼も楽しく花笠まつりの期間の日中でもすけれども、午後1時半から午後3時から、やまがたクリエイティブシティセンターQ1で花笠のある意味踊りの練習ということも含めて昼花といったものも予定しております。こちらのほうもぜひ皆さんからご覧いただければと思っております。

それから今回は旧県民会館用地、今現在は更地化されております。その文翔館の向かいの東側、そこを花笠横丁ということで、新たにいろんな催事を設けることにしております。ちょうど図の真ん中右側のところ、四角の数がいっぱいあります、今回120席ほど有料観覧席を設けさせていただきまします。S、A、Bくらいに分けた形で、全体で120席を3日間ということで観覧席を設けておりますし、また、今回、アサヒビールさんのほうから非常に大きなご支援、ご協賛をいただいております。「マルエフ横丁」という、非常においしいビールのご提供もさせていただくことにしております。また、「やまがたフルーツ150周年ブース」という、さくらんぼ、ラ・フランスの定植をしてから来年150年を迎えます。この150周年を記念して、来年度のイベントに向けまして、今、県のほうでPRを進めておりまして、そのブースも設けております。今日は皆さまのほうに花笠のうちわをお配りさせていただいております。うちわの裏側に今回、山形フルーツ150周年記念のうちわになっております。「いちずに、かじつ。」というロゴマーク入りのものになります。こちらのほうも花笠と一緒にPRしていく予定であります。

それから、今回第62回のミス花笠4名になっております。5月26日に選考会を行いまして、その後週1で練習をしていただいて、踊りも上手になってきております。当初、ミス花笠応募の際に、実は男性2名も応募がございました。当初、多様性の観点で、トランスジェンダー等も含めて今回募集をした形でありましたけれども、いろんな審査の結果、この4名が選考されたという形になっております。

それから並行しまして「願いちょうちん やっしょまかしょプロジェクト」ということで、これは山形駅の東西自由通路のところ、駅のところから、それからまっすぐ東のほうに向かって、歌懸稲荷、十日町角まで子どもたちの願いを書き込んだ提灯を飾っていただいております。これも主管の企業さんの協力で行ったプロジェクトでありまして、今回が第3回目という形であります。非常に子どもたちの純粋な思いや願いが提灯に直接記載されておりますので、ぜひこの辺もご覧いただいて、また、駅からの花笠のメイン通りに向けてのプロムナードとしてこの提灯も非常に大きなイベントの1つになっておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

その次に、山形花笠まつりの由来ということで、非常に小さな資料がありまして、大変恐縮ではあるのですが、これは商工会議所で整理をした資料になっております。花笠まつりそのものは、昭和38年、1963年、これがスタートになっておりますが、この時は県、市、それから山形新聞社、商工会議所などが中心となっ

て蔵王開山の1250年を記念するイベントということで、「蔵王夏まつり」といったものが開催されておりました。花笠まつりはその蔵王夏まつりの中での「花笠音頭パレード」というイベントの1つとして実施されておりましたけれども、昭和40年からは単独の「山形花笠まつり」として現在のかたちになっております。昭和45年に大阪万博がございまして、その際に花笠踊りが披露されて、全国的に花笠踊りの知名度が広がったということでもあります。また、平成5年からはまつりの事務局のほうも、山形新聞社さんに当初ございましたけれども、それが山形商工会議所に移りまして、会員企業さんであったり、それから学校や愛好会などの参加団体も増加しまして、今の市民参加型のまつりのほうに徐々に変化してきたという形であります。

それから、花笠まつりの歴史的なところで行きますと、花笠音頭、「花笠踊り唄」というふうにも呼ばれており、その起源については諸説あるようです。もともと明治・大正の頃、山形県村山地方で唄われていた「どんつき（土突）唄」、地固めのために行う土木工事の際のどんつき唄、それが元唄になって、大正8年頃に尾花沢郊外のかんがい用水、徳良湖の築堤工事の際に、どんつき作業をする時に調子を合わせるための作業歌に「渡り土方」が歌う船方節や八木節などがミックスされて、新しく唄われたどんつき唄が「花笠音頭」とされております。現在のように賑やかな伴奏になったのは昭和の初期頃といわれております。山形市の郷土史家の亡くなられた後藤嘉一さんの記録、歴史書によりますと、最上義光の頃、最上の最前線のお城ということで成沢城、成沢にお城を築城したわけですがすけれども、成沢城の築堤工事の際にどんつきの唄が歌われていたということで記録が残っております。その後、成沢と尾花沢、大石田の方々がいろんな交流がありまして、成沢のどんつき唄が徐々に尾花沢、大石田等のどんつき唄のほうに引き継がれていったという記録が残っております。その後、成沢のほうのどんつき唄というのは衰退してしまうのですが、尾花沢のほうのどんつき唄が尾花沢の笠を回して踊る笠踊りと連動していわゆる花笠踊りにつながったということで、花笠踊りの発祥の地は尾花沢というような形になっているようでもあります。

その踊り方も地域によってさまざまございまして、今、種類だけでも10種類余のさまざまな踊りがあるということではありますが、昭和38年に、第1回の蔵王まつりの時、それらを一本化して、誰でも手軽に踊れる現在のような踊り「正調花笠踊り」が誕生したと言われております。そして平成10年には男性的な踊りの「正調花笠踊り」のほうも誕生したということで、踊りにつきましてもやはり歴史的な変遷がございました。

その裏面に、これまでの花笠まつりの歴史ということで、時系列的に今ご説明したようなことを記載しております。昭和38年が第1回の際は「第1回蔵王夏まつり」と、それから第2回が昭和39年、当初、第1回目は8月の8日、1日だけということでしたけれども、第2回の際は6日から8日にかけて、この時3日間初めて開催された形で、この3日というのが花笠開催の原形になっております。そして第3回の際に「山形花笠まつり」ということで、正式に花笠まつりの名称が認知されたと、開催されたということになっております。

先ほど申し上げました大阪万博で、昭和45年ですね、花笠を披露しておりますけれども、実は東日本大震災以降、六魂祭という形の6県でおこなっております祭りにつきまして、一巡したあとは「絆まつり」という形に

なっておりますが、先般仙台のほうで絆まつりが開催されまして、そこにも花笠は出たわけですが、その際に来年の絆まつりは、来年度、関西大阪万博が開催されますので、来年の6月の14、15日に絆まつりが大阪に行きまして、万博で踊りを披露するという、花笠も何十年ぶりかまた万博の中で披露されることになっております。

それから第20回の際は、現在のJRでデスティネーションキャンペーン、1日プラスして4日間開催をしました。それから第30回の平成4年、いわゆる東北4大まつりということで、全体の日程を調整しようという話がありまして、青森ねぶたまつりについては8月2日から7日にかけて、秋田竿灯については8月3日から6日、仙台七夕は8月6日から8日、山形は8月5日から7日ということで、東北をうまく北から周れるような流れを作ろうということで日程を調整したと伺っております。そのあと平成5年に、先ほど申し上げましたように、事務局が山新グループさんから商工会議所に移されまして、商工会議所のほうでは協議会を関係する機関、団体、企業さんと構成しまして、その中に実行委員会を置きまして実施をするというような流れで進めているところであります。

それから、第50回、平成24年の時に第50回を記念しまして、山形花笠まつりの記念誌を発行しております。皆さまのほうにはコピーしたもので若干ご説明させていただければと思います。それから第51回の際はサマーフェスティバル、こういったものと連動しながら花笠を盛り上げようということで、企画されました。また、令和2年の第58回からコロナの関係で、花笠まつり始めて以来初の中止となっております。令和3年の第59回の際は、パレードは中止にしましたけれども、山形市の総合スポーツセンター内のきらやかスタジアムで、ある程度限定した形でパレードを開催しております。そして令和4年はコロナの感染防止対策を取りながら、3年ぶりにまたパレードを再開しております。この時から熱中症対策ということで、パレードの距離も800メートルに短縮して進めているところであります。

この資料は、あと関係行事でありますとかさまざま記載しておりますので、ぜひまた後ほどご参考させていただいてご覧いただければと思います。花笠のシンボルであります大権現の山車の変遷でありますとか、それから花笠のすげ笠の変遷なども記載しておりますし、また、太鼓演奏などについてもこれまでの経過も含めて記載させていただいております。ミス花笠は昭和38年第1回の際は「ミス蔵王」と言っておったようです。正式には第2回の際から「ミス花笠」といった名称で選考して進めてきております。今現在で250名を超える方々がそのミス花笠として活躍いただいた形になっております。

その次にはいろんな歴代のデータということで、数値のほう記載しておりますけれども、来場者の状況を見ますと、やはり多い時では百万人、それから踊り手も多い時では1万4千人を超えるような形で、また団体数も160くらいの団体から出ていただいております。近年の傾向として、やっぱり1つの団体の参加者が徐々に減ってきているということもありまして、1団体、多い時で200名くらいの団体がありましたけれども、それがどうしても100名くらいに縮小してきているということ

で、この辺もこれからの1つの課題になってこようかなと思っております。

それから先ほど申し上げました50年記念誌からの抜粋でありますけれども、A4横で一番最後に冊子を入れてさせていただいております。写真入りのものになりますけれども、昭和38年、第1回の蔵王まつりの時のパレードの写真が載っておりますけれども、大沼の前になりますね。そちらで開催されたパレードの状況です。

これまで半世紀の中で、花笠といったものが、国内においては大阪万博でありますとか、東京オリンピックの時もアトラクションとして参加しながらPRしてきておりますし、また、海外に向けた山形の発信という点でも、フランスのパリ、またリスボン、さらにはスペイン、スイス、それからタイ、さらにはエジプトとか、ニューヨーク、いろんな形で花笠を山形の象徴としてPRをさせていただいております。

花笠音頭は、従来2つの句からなっておりますけれども、今、15ほど募集をしまして、15節ほどの全体の花笠音頭になっております。それもこちらの資料のほうに載っておりますので、ご覧いただければと思います。

また、笠回しも含めた多様な踊りが今の花笠の魅力にもなっております。ご案内ですけれども、四方山会のほうは昭和49年から結成されて、非常に魅力的な笠回しの踊りになっておりますし、また、今現在、山形大学の花笠サークル四面楚歌などもまつりの1つの大きな魅力になってきているところです。踊りそのものの先頭、先団に行く正調花笠踊りは、ここにきましては山形県花笠協議会の舞踊指導委員会を設けまして、花笠舞踊団、現在80名おります。また、花笠塾ということで、塾生も今30数名ほど育成をしておりますので、こういった取り組みをしながら花笠を盛り上げているという状況であります。

これまでゲストとして参加していただいた方々の写真などもございます。伴淳三郎さん、泉ピン子さん、小林綾子さん、『おしん』の時ですね。さらには天地真理さんとか岡田奈々さんとか、岡田奈々さんの時はちょうど山形の終点のところまで観客に周りを囲まれてしまって、そこで降ろせないということになって、かなり西のほうまで行ってから降ろしたというふうな逸話があるようであります。いろんなイベントを盛り上げる参加者の方々の歴史的な映像なども今回資料の中に付けさせていただきましたので、ぜひ後ほどご覧いただければと思います。

それから最後に、恐縮ではありますが、日本一の芋煮会フェスティバルのチラシになります。今年も9月15日に商工会議所の青年部が中心となって開催させていただきませんが、今回の新たな取り組みということで、このチラシの裏面に芋煮グッズをいろいろと販売したいということで作らせていただいております。まだまだ協賛の方々を募集しているということでありましたので、ぜひロータリークラブの皆さまからのご支援を賜れればと思います。

あと、最後に商工会議所の入会のご案内なども付けておりますので、さまざまな面で商工会議所のご支援、ご協力いただければと思います。短い時間ではありますが、雑多な説明で大変恐縮ですが、以上、花笠まつりのこれまでの状況などをご説明させていただきました。ありがとうございました。

| 本日出席（8 / 5） | 会員総数 | 出席会員数 |
|-------------|------|-------|
| | 104名 | 60名 |